



東洋エンジニアリング株式会社

国際競争力のさらなる強化に向け プロジェクトの情報共有システムを刷新 新システムをNSSOLがクラウドサービスとして実現

■要件

国際競争力をさらに強化するため、プラントプロジェクトで利用する情報共有システムを刷新する。設計書といった文書や、依頼状として使う電子メールを全世界からセキュリティを保って共有できるシステムを求めた。

■ソリューション

実績のある文書管理ソフトウェア「Oracle UCM」、ワークフロー構築ソリューション「NSFLOWER」などをベースにシステムを開発。新システムの基盤を新日鉄ソリューションズのクラウドサービスとして実現する。

■成果

初期投資コストを抑えて新しい情報共有システムを構築し、利用状況が変動しても柔軟に対応できるようになった。四つのプラントプロジェクトで利用を開始するとともに、新システムによる業務改革を進めている。

海外パートナーとの事業が増え プロジェクトの情報共有が重要に

石油化学から発電、医薬、ファインケミカルといった様々な産業プラントに関する総合エンジニアリング事業を展開する東洋エンジニアリング。「Global Toyo」と呼ぶグローバルプロジェクト遂行の体制サービスを推進し、数々の大型プロジェクトを実施している。

同社が、プラントプロジェクトで利用する情報共有システムの刷新を検討し始めたのは、2009年7月ごろという。プラントプロジェクトでは、設計書などの文書や図面、電子メールやレターなどを利用した連絡業務を、プロジェクト関係者間で頻繁に行う必要がある。

東洋エンジニアリングでは、プロジェクト用の情報共有システムを構築して活用していたが、エネルギー需要拡大への対応で案件が大型化。海外企業とジョイントベンチャー(共同企業体)を構成するプロジェクト体制でパートナー企業や参加人数が大幅に増えるに従い、課題が表れ始

めていた。

IT統括本部 プロジェクトITグループ グループマネージャーの林斗志夫氏は「従来のシステムは当社従業員の社内利用が前提でした。これを、パートナー企業を含むプロジェクト関係者が、社外からセキュリティを保ってアクセスできるシステムにしたいと考えました」と語る。

また従来は、図面管理、レターや文書管理といったシステムを個別に構築していた。メールの添付ファイルとして文書を配布することも多く、プロジェクトの大型化に伴い、通信量の増大につながっていたという。

そこで新システムでは、図面管理とレターや文書管理の機能を一体的に構築。表計算ソフトを使って実施していたプロジェクトステータス管理についても新システムの機能として統合することを目指した。

さらに、東洋エンジニアリングは、新システムの構築を、業務改革と一体的に推進した。

IT統括本部 プロジェクトITグループの長澤道夫氏は「従来は、文

書ファイルの出力が原本で、それを改めて電子化してシステムに登録していました。新システムの構築と並行して、文書ファイル自体を原本として扱うよう業務を変革する計画を立てました」と語る。

新システム構築は、2009年10月にスタートした。要件をまとめ、複数のITベンダーから提案を募ったという。その結果、構築パートナーとして選択されたのが、新日鉄ソリューションズである。

文書管理ソフトを含めた基盤を NSSOLのクラウドとして実現

長澤氏は「新日鉄ソリューションズは、エンジニアリング業界における文書管理のポイントを熟知しており、提案内容が具体的でした。また、Oracle Databaseをはじめとする基盤製品の技術力を以前から高く評価していました」と語る。

林氏は「当社は、コンサルティングから運用まで幅広い支援を必要としていました。新日鉄ソリューションズなら、すべてを任せられます」と評価



東洋エンジニアリング株式会社 IT統括本部 プロジェクトITグループ グループマネージャー 林 斗志夫氏



東洋エンジニアリング株式会社 IT統括本部 プロジェクトITグループ 長澤 道夫氏



東洋エンジニアリング株式会社 IT統括本部 プロジェクトITグループ 前田 陽造氏



東洋エンジニアリング株式会社 IT統括本部 プロジェクトITグループ 時松 基氏

する。

新システム構築プロジェクトは、実装方式の検討から始まった。パッケージや外部サービス活用など様々な方式を比較。新日鉄ソリューションズの提案を採用し、2010年4月から2011年1月にかけて構築を進めた。

新システムでは、日本オラクルの文書管理ソフトウェア「Oracle UCM (Universal Content Management)」および新日鉄ソリューションズのワークフロー構築ソリューション「NSFLOWER」などをベースにアプリケーションを開発。Oracle UCMを含むシステムの基盤部分を、新日鉄ソリューションズのクラウドITインフラサービスである「absonne (アブソンス)」上で月額提供する。併せて、アプリケーションの運用を新日鉄ソリューションズにアウトソースする。

システム構築に関する新日鉄ソリューションズの評価も高い。

IT統括本部 プロジェクトITグループの時松基氏は「完成が近い

■コアテクノロジー

クラウド・コンピューティング、absonne、NSFLOWER、アプリケーション運用アウトソーシング

■システム概要

- クラウドITインフラサービス：absonne
- ミドルウェア：Oracle UCM、Oracle Database、NSFLOWER
- 主なアプリケーション：統合ポータル、プロジェクトステータス管理、文書管理、コミュニケーション管理

2010年の終わりごろ、このシステムを適用するプロジェクトが次々に決まりました。限られた時間の中、新日鉄ソリューションズは高い品質のシステムを完成させました」と語る。

新システムは「SHOKA (ショカ)」と名付けられ、国際的に推進する四つのプラントプロジェクトで2011年2月から利用を開始した。

高い品質のシステムが完成 業務改革における活用も始まる

成果は大きい。クラウドサービスとして実現したため、初期投資を抑えることができた上に、システム利用状況が変動しても柔軟に対応可能になった。

また、サーバーのデータベースで

文書を一元管理し、インターネットでセキュリティを保ってアクセスできるため、海外パートナーとも容易に最新情報を共有できる。

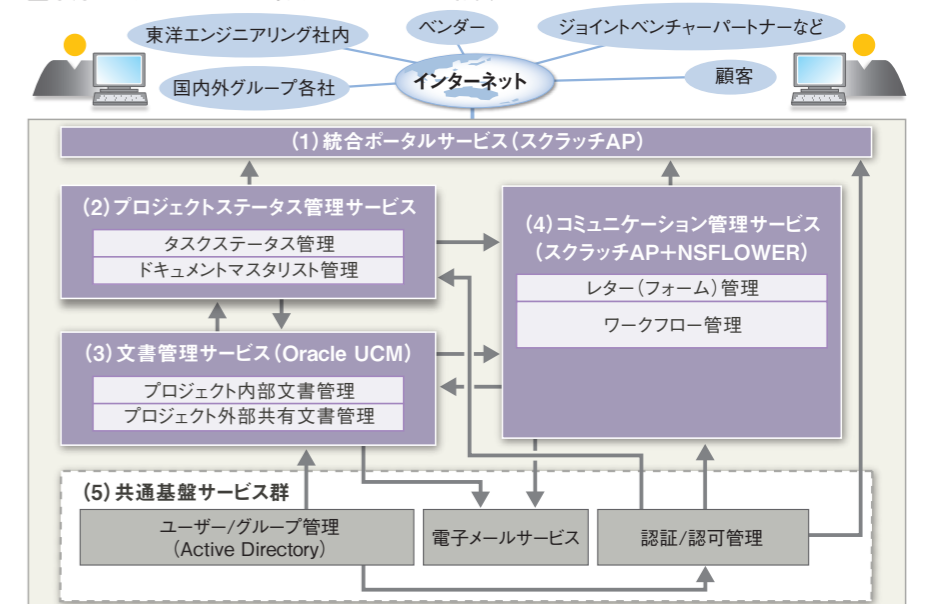
並行して進める業務改革でも活用されている。IT統括本部 プロジェクトITグループの前田陽造氏は「新システムではプロジェクトのステータスを自動的にまとめることができます。ステータス情報を複数のプロジェクトで比較するなど、業務改革を進めるためのツールとして利用しています」という。

林氏は「今後は、資材調達時の見積もりなどへシステムの適用範囲を広げるとともに、海外パートナーの利用に対するサポート体制を整えていきます」と次の目標を語る。



東洋エンジニアリング株式会社
本社：千葉県習志野市茜浜2-8-1
設立：1961年
資本金：181億円(2011年3月31日現在)
完成工事高：単独1150億円/連結1556億円(2011年3月期)
従業員数：単独1088名/連結4024名(2011年3月31日現在)
グループ会社：子会社35社、関連会社14社(2011年3月31日現在)

■東洋エンジニアリングが導入したSHOKAの概要



AP:アプリケーション UCM:Universal Content Management
SHOKAは東洋エンジニアリング社内システムの名称

SHOKAの利用サービス対象範囲